

<研究課題名>

急速進行性糸球体腎炎患者の貧血の病態における hepcidin（ヘプシジン）の役割の解明

<研究期間>

許可日から 2025 年 3 月 31 日まで

<研究の目的・意義>

急速進行性糸球体腎炎を発症すると、初期から貧血の合併頻度が高いことが知られています。慢性的に腎機能が低くなっている患者さんにはよく腎性貧血がみられますが、急速進行性糸球体腎炎の貧血は、多くの例でそれだけでは説明できません。その様な例では体内の鉄が赤血球を作るためにうまく使われていないのではないかと考えられています。最近、体内に貯蔵されている鉄の有効利用を邪魔する物質としてヘプシジンが注目されていますが、急速進行性糸球体腎炎においてヘプシジンがどのような役割を果たしているのかは現在よく分かっていません。治療経過中に血中のヘプシジンの濃度を測って、治療の効果との関連性を解析すれば、その治療が適切であったかを検証するのに有用であると考えられますが、この研究の目的はこれを検証することです。

<研究方法>

この研究への参加にご同意いただきましたら、入院時と退院時の計 2 回、採血検査の際に 3mL 程度血液を多めに採取させていただき血液中のヘプシジンと炎症反応の指標である IL-6（インターロイキン-6）を測定します。ヘプシジンと IL-6 測定に関する費用は腎臓内科の研究費を用いますので、費用を負担いただくことはございません。また、電子カルテより以下の情報を取得します。

電子カルテの情報：

1. 研究対象者背景（生年月、性別、既往歴、合併症、併用薬）
2. 身体所見（身長、体重、血圧）
3. 臨床検査（入院時、退院時）

血液学的検査（白血球数、赤血球数、Hb、Hct、赤沈）

生化学検査（CRP、蛋白分画、プロカルシトニン、血清クレアチニン、BUN、Fe、UIBC、フェリチン）

尿検査（尿蛋白定性、尿潜血定性、尿蛋白/クレアチニン比）

4. 治療方法

通常の採血項目で分かる腎機能や鉄関連・炎症の指標の動きとヘプシジン濃度の変化量の関連を解析します。

<予測される利益・不利益について>

この研究に参加いただいた場合、患者さんに直接生じる利益はございません。今回参加いただいた患者さんへの新たな負担や副作用などの不利益はありません。

この研究に関するご質問等がありましたら、下記の研究責任者までお問い合わせ下さい。

連絡先：

研究責任者： 自治医科大学内科学講座腎臓内科学部門 教授 長田太助

所在地： 栃木県下野市薬師寺 3311-1

電話番号： 0285-58-7346

苦情の受付先：

自治医科大学附属病院臨床研究センター管理部（電話 0285-58-8933）